

令和7年度
広島県瀬戸内高等学校一般入学試験問題

国語

(50 分)

..... 注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この冊子を開いて見ないこと。
2. 解答は必ず解答用紙の指定された箇所に記入すること。
3. 問題・解答用紙に落丁、乱丁、印刷不明な箇所があれば申し出ること。
4. 問題・解答用紙の指定欄の太枠内に、受験番号を忘れずに記入すること。
5. 問題・答案は試験終了後、監督員の指示によって回収するので、終了の合図までそのまま静かに着席していること。
6. 余白は自由に使って良い。

受験
番号

--

【一】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

社会はリセットできない。人間は合理的には動かない。だから過去の記憶を訂正しながら、だましましカイリョウaしていくしかない。(中略) このような発想は「I」に見えるかもしれませんが。実際、訂正する力の話はとても文系的な話でもあります。

ある理系のかたと話したとき、ベストセラーになった斎藤幸平さんの『人新世の「資本論」』が理解できないと言われたことがありました。主張以前に、なんでいまさらマルクス*1を読む必要があるのかわからないと言っています。

本書の読者のみなさんにも、似た疑問を抱いたことがあるひとは多いのではないかと思います。実際、文系の学者は、過去の著作を引張り出し、新たな視点から解釈して読みなおすといったことばかりやっている。理系では*1そんなことはしません。重力を学ぶためにニュートン*2を読みなおす、なんてことはないわけです。

なんで文系はそんなことをやっているのでしょうか。それは文系の学問が基本的に「じつは……だった」の学問だからです。

そもそも文系の学問の対象は、存在するようできて存在しないものです。たとえば善とか美とか真とか言っても、そういう物体がどこかに存在しているわけではない。言葉のなかにしか存在しません。

だから文系の学問は、理系のように「言葉と対象が一致すれば真実」「予測がうまくいけば真実」といった基準で学問を進めることができます*2。

ではどうするかといえば、そこで基準になるのが「じつは……だった」の論理なのです。プラトン*3は真理という概念cについてこう語った。カントはこう語った。ハイデガーはこう語った。まずはそういう歴史がある。

そのいずれが正しいかについては、そもそも真実という観念自体が言葉のなかにしかない以上、理系的な手法で探求しても意味がありません。できるのは、そういう過去の歴史を踏まえたうえで、いまの社会状況に照らし、真理という概念をあらためて使うとすればこういう再解釈が有効なのではないか、という「訂正」の提案でしかない。そうやって未来に進みます。

つまり、文系の知*3とは、本質的に「訂正の知」なのです。だからぼくたちは、21世紀になっても「プラトンはじつは……と言っていた」「マルクスはじつは……と言っていた」といった表現をするのですね。

最近では文系学部不要論が盛んですが、このように考えると、文系的な知——より正確に言えば人文学的な知——にも存在意義が見えてくるはずですよ。

最近、ChatGPTのような生成AIが話題になっています。なにか質問を入力すると、まるで人間のように自然な言語でそれっぽい答えを返してくれる。いろいろな議論がありますが、このような技術の出現が意味しているのは、要は人間の言語は意識がなくとも構成できるといことです。

(中略) ぼくたちは日常では自動機械のように言葉を発している。この言葉のつぎにはあの言葉を発しておけばいいだろう、という連想の連鎖の会話を展開している。たいていはそれで問題が起きない。つまり、^④ぼくたちのコミュニケーションはそもそもChatGPTとあまり変わらない。だからAIで置き換えることができちゃう。

では、人間が人間であるゆえんはどこにあるかというところ、それはそんな無意識の連鎖に対する「メタ意識」^{**4}にあります。つまり、「あれ、違ったかな」という訂正こそが人間の人間性を支えている。人間は、訂正する力をもっている、いままで長いあいだ使われていた言葉を、その記憶を継承したまま違う意味の言葉に変えることができる。それは、ここまで述べてきたように「言葉の外」がないと不可能な行為です。ChatGPTには言葉の世界しかない、訂正ができません。

人間は、言葉のなかだけではなく、言葉の外にも世界をもつ生物です。それゆえ、ふたつの世界の関係を調整するため、たえずIIを訂正することを求められる。

^⑥理系の知は、「言葉の外の世界」を予測するために発達したもので、「言葉の世界」と「言葉の外の世界」^{**5}が個別の命題単位で一致することを求める。

他方で文系の知は、基本的には「言葉の世界」にしか関わらず、理系のような命題単位での外部との一致を必要としない。けれども、全体として「言葉の外の世界」とずれてくると言葉の使用そのものが意味をなくし、単なる言葉遊びになってしまうので、中心をなす重要な概念についてはときおり訂正を必要とする。そんなふうを考えればよいと思います。

(東 浩紀著 『訂正する力』を一部改題)

※1 マルクス — (一八一八〜一八八三) ドイツの経済学者・哲学者・革命家。主著「資本論」。

※2 ニュートン — (一六四二〜一七二七) イギリスの物理学者・天文学者・数学者。

※3 プラトン — (前四二七〜前三四七) ギリシアの哲学者。

※4 メタ意識 — 「メタ」とは「超越すること。高次。」という意味がある。ここでは、無意識と異なる訂正しようとする意識、という意味で使用されている。

※5 命題 — 判断の内容を言語で表したものの。「AはBである」という形式をとる。

問一 ｛ a ｝ c のカタカナは漢字に直し、漢字は読みをひらがなにそれぞれ直して書きなさい。

問二 I に補うべき語句として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

- ア 非現実的 イ 非科学的 ウ 非文化的 エ 非常識的

問三 II に補うべき語句を文章中から二字で抜き出して書きなさい。

問四 ——— ① 「そんなこと」とありますが、これはどういうことですか。文章中から適当な箇所を三十五字で抜き出して、最初の五字と最後の五字を書きなさい。

問五 ——— ② 「文系の学問は、理系のように『言葉と対象が一致すれば真実』『予測がうまくいけば真実』といった基準で学問を進めることができます」とありますが、これについて次の問いに答えなさい。

1 「文系の学問」の対象はどこに存在しますか。文章中から五字で抜き出して書きなさい。

2 文系と理系の学問の基準に該当するものを、次のア～エの中から一つずつ選び、記号で書きなさい。

ア 植物は、二酸化炭素と水と太陽光によって有機物と酸素ができるという予想が、実験によって証明された。

イ 偶数と偶数を足すと偶数になる、奇数と奇数を足すと偶数になるということは常識である。

ウ 他者は自分と別の存在であることは明白の事実であるが、じつは相手の立場になって考えればその気持ちを思いやること
ができる。

エ 武家政権の始まりは一一九二年ではなく、じつは源頼朝が鎌倉入りし、南関東を支配した一一八〇年から段階的に始まったとされている。

問六 ——— ③ 「文系の知」について、次の問いに答えなさい。

1 これはどういうことですか。その説明として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 善・美・真といった物体の存在しない概念について、現在に合わせた活用方法を複数提案すること。

イ 過去の歴史と現在の世の中の流れを確認し、その両者を比較することで見いだすことができる新たな認識のこと。

ウ 過去の有名な学者の著作を何度も読み返すことによって、昔のことを深く認識できること。

エ 世の中で常識になっているさまざまな物事を「じつは……だった」という論理にあてはめないこと。

2 これと意味が近い四字熟語は何になりますか。最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 温故知新

イ 馬耳東風

ウ 千変万化

エ 画竜点睛

問七 ———— ④「ぼくたちのコミュニケーションはそもそもChatGPTとあまり変わらない」とありますが、このように言えるのはなぜですか。二十五字以内で書きなさい。

問八 ———— ⑤「人間が人間であるゆえん」とありますが、これはどういうところが「ゆえん」になりますか。その説明として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 人間は概念を認識する力をもっており、言葉のなかと言葉の外にあるふたつの世界を調整しながら言葉を使うところ。

イ 人間は間違いを直す力をもっており、自分と関わりのある言葉を、無意識の中で訂正しながら意味を変化させるところ。

ウ 人間は軌道修正する力をもっており、使用する全ての言葉を、「言葉の世界」と「言葉の外の世界」に分けて認識するところ。

エ 人間は訂正する力をもっており、受け継がれてきた言葉を、「言葉の外」において解釈し直しながら使用するところ。

問九 ———— ⑥「理系の知」とありますが、これにはどういうことが必要ですか。その説明として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 「言葉の世界」と「言葉の外の世界」が異なるよう個々のものがそれぞれ一致する必要がある。

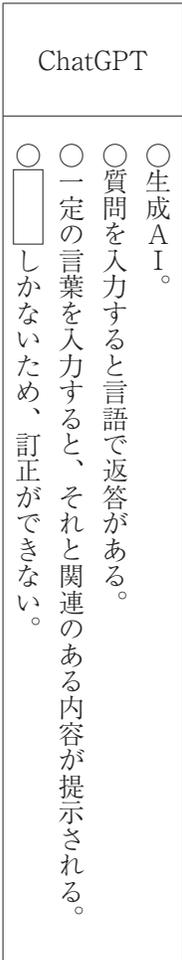
イ 「言葉の外の世界」で言葉の意味を失わないよう「言葉の世界」の概念が変化することを防ぐ必要がある。

ウ 「言葉の世界」と「言葉の外の世界」の認識のずれが起こらないよう訂正する必要がある。

エ 「言葉の外の世界」を予測することができやすいよう「言葉の世界」を常に変化させる必要がある。

問十 この文章では、ChatGPT がとりあげられていました。それをまとめたものが次の図です。 [] に補うべき語句を文章中から五字で抜き出して書きなさい。

〈 図 〉



【二】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

大学生の空哉は飲食店でアルバイトをしている。十年ぶりに祖母の家を訪れ、祖母が体調を崩している現状を知る。庭にいた口内炎にかかった白猫を見た空哉は、かつて元気だったころの祖母とのやりとりを思い出す。以下は現実と回想が行き来する場面である。

祖母は、優しく微笑んでいった。

「空哉には何のお薬も必要じゃないのよ。だってあなたは強い子だもの」
そんなことはない、と思った。

ぼくはこんなに泣き虫なのに、と。そう思った途端に、涙が溢れてきた。

祖母は空哉を優しく抱きしめて、背中をトントンと叩いてくれた。

空哉は祖母のからだのあたたかさを感じながら、自分は今こんなに小さい子みたいじゃだめだ、とも同時に思っていた。もっと強く、ちゃんとした人間になりたい、と。もう十一歳なのだから。どうして自分はこんなに弱いのだろう、と。

そのとき、ふと視界の端に、鏡が見えた。

祖母に抱きしめられて力なく泣いている、五年生にしてはか弱く線が細い自分と、そして——悲しそうな祖母がそこにいた。

祖母のそんな表情は見たことがなかった。果てしなく悲しそうな、泣きたいような目で、腕の中の孫のことを見つめていた。

それはいつも澆^{※1}澆^{はつろ}とした、明るい祖母とは別人のような、ほっそりとして、優しくて儂^{はかな}けなおばあさんの姿だったのだ。

（ああ、^①ぼくはこんなじゃだめだ）

そのとき、空哉は強く思ったのだった。

（ぼくのことを大好きで、ぼくに優しいおばあちゃんに、こんな顔をさせちゃだめだ）

（そんなかつこ悪いこと、ぼくは許せない）

自分に甘えるものか、と I。

ここで踏みとどまるんだ。おばあちゃんを悲しませないために。心配させないために。

おばあちゃんの朗らかな声^aが、頭上に降ってきた。

「空哉、お茶を飲みましょうか。『魔女の家』^{※2}で買ってきたお茶を。幸せになれるお茶だって、魔女は知っているわ」

そう、祖母のいれてくれる、空色のお茶があ頃の空哉は好きだった。名前を知らない花のかすかな香りと甘い蜂蜜はちみつの味がするお茶が。ガラスのポットで入れて、ガラスの器に注いでくれる香草のお茶は、レモンを入れると黄昏※3 たそがれの空の優しい紫色に姿を変えた。

② まるで魔法のように。

祖母の家の庭には、もったりとした紫陽花あじさいが咲いている。あの六月にも咲いていた。

黄昏の空の色みたいだ、と思ったのを、思い出した。

記憶は、水底にある小石のようだと思った。ふだんは見えないし、忘れているけれど、水の中を静かにのぞき込んでそっと手を入れれば、ひとつひとつ拾い上げることができるようにそこにあるのだ。大切なことは忘れないのだ、きつと。

（ああ、そうか、それか——）

空哉はひとり、うなずいていた。

（あれが③きつかけだったのか）

あの日、祖母の悲しげな表情を見たとき、大好きなひとにこんな表情をさせてはいけない、自分のせいなんだ、と思ったとき、頑張ろうと思ったのだ。

自分はまだ泣いてはいけない、と。

こんなに優しい綺麗きれいなひとを、貴婦人のような綺麗なひとを泣かせてはいけない、と。

祖母が好きで、そのひとの本棚に並んでいた、外国の妖精物語に出てくる騎士たちが貴婦人を守るように、ぼくはおばあちゃんを守る騎士になろう、と。

それは心の奥底にそっとしまい込んだ誓いだった。誰にいうこともなかった。さすがに騎士だの貴婦人だの、誰かに話せるようなことでもない。けれど、心の中にその誓いがあるということは、いつだって密④かなお守りになった。

（たぶん、ひとは自分だけのためには強くなれないんだ。いや、それでも戦える勇者はいるのかも知れないけれど、少なくともぼくはだめだった。背中にかばえる誰かがいないと、強くなれなかった）

学校で、いじめっ子や性格のきつい子たちからまれ、つかれて泣きそうになっても、心の中にいるおばあちゃんの泣きそうな顔を思い出すと、頑張れた。顔を上げ、涙を呑み込んで、うまく受け流すことができた。

そのうちにいつの間にか、泣かなくなった。

(お客様がいるときと同じなのかも)

ふと思う。店にいるとき、多少の災害や事故があっても、万が一フシンシヤがやってきたとしても、空哉は自分や店の仲間たちが勇者のように振る舞えることを知っている。

お客様が無事を守り、できうる限り、店も守ること。ひとりならば慌てふためき、逃げたくなるようなときも、お客様がそこにいれば、空哉は頑張ることがきつとできる。

大切なものを守る、騎士のように。

空哉は母に、祖母の現状についてレンラクした。母はすぐに駆けつけてくれるという。父もあとから来るそうだ。学会に出かけている叔父もそのうちに帰宅する予定の時間になる。叔母が診察室にいる病院もそろそろ閉まる時間になるので、夕食の時間の頃には、みんな揃うだろう、という話になった。

^{※4}陸緒は夕食の準備を始めた。この家での大人数の食事は久しぶりだと楽しげだった。

「きつとおばあちゃん喜ぶだろうな」

空哉も料理は好きだ。手伝おうとしたのだけれど、

「まあ何が出てくるか楽しみにして、任せておけよ」

台所から追い出されてしまった。

祖母はあれきり寝ているし、すると空哉にはできることがなかった。

庭にぼつんと佇んでいる、お腹を空かせた白猫と見つめあうしかなく、すると切なくなるばかりで。

「――よし、菓を探しに行つてやろう」

何げなく猫にいうと、白猫は不思議に輝くまなざしで、空哉を見上げ、見つめた。

駅前dの繁華街を離れ、港のそばへと歩いていく。通りの名前は三日月町の三日月通り。ひとけのない裏通りの、寂れた街角の。

子どもの頃に祖母に聞いたその場所のことを思い返しなが、夕暮れてきた街にひとり歩を進める。

六月の町は、公園や庭先、店先のそここに、紫陽花の花を咲かせていて、美しかった。

その様子は、青や紫の光がそこに射しているようで、紫の陽の花とはよく名付けたものだなと空哉は思った。

歩いているうちに、ふと思う。

十年前のあのときの鏡の中の祖母の悲しげな表情のわけを。

おとなになつたいまだから、わかるような気がした。

(もしかしたら、孫がかわいそうだったからじゃなく——)

そんな孫をうまく力づけることができない自分が不甲斐なかつたから、だつたのかも知れない。腕にいる孫を守ってやりたくても、励ましたくても、やりかたがわからなくて、自分の無力さが悲しかったのかも。

「——ありがとう」

歩きながら、空哉はそつと呟いた。

自分の長い影が、路上に映っている。その影を踏むようにしながら、もう一度呟く。

「おばあちゃん、ありがとうね」

そうきつと、自分はⅡが必要だつたわけじゃなく、泣き虫の弱虫でもなかつたのだ。

あの一とがそういつた通りに。

^⑦唇に笑みを浮かべ、空哉は夕方の空を見上げる。

(村山早紀著

『魔女たちは眠りを守る』より)

※1 溼漉 | 元気のよ良さま。

※2 魔女の家 | かつて祖母が口内炎になつた猫のために薬を買つた店。

※3 黄昏 | 夕方の薄暗い時。夕暮れ。

※4 陸緒 | 空哉のいとこ。祖母の家に住んでいる。

問一 ~~~~~ a ~ d のカタカナは漢字に直し、漢字は読みをひらがなにそれぞれ直して書きなさい。

問二 I に補うべき語句として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 舌を巻いた

イ 歯を食いしばった

ウ 目から火が出た

エ 頭が上がらなかった

問三 II に補うべき語を文章中から漢字一字で抜き出して書きなさい。

問四 ①「ぼくはこんなじゃだめだ」とありますが、空哉は何をだめだと考えているのですか。その説明として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 常に明るい祖母を困らせるほど、泣いてばかりいる弱々しい自分。

イ 優しい祖母に甘やかされたいと願う、小さい子どものような自分。

ウ 感情の起伏が激しくなり、わがままで祖母を悩ませてしまう自分。

エ 将来の目標が見つからず、意志の弱さを祖母から心配される自分。

問五 ②「まるで魔法のように。」で使われている表現技法として、最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 体言止め イ 擬人法 ウ 直喩 エ 隠喩

問六 ③「きっかけ」の内容を次の文のように説明しました。空欄に補うべき語句を文章中から三十五字程度で抜き出し、解答欄に合わせて書きなさい。

祖母が 三十五字程度 こと。

問七 ④「密かなお守り」とありますが、空哉にとってどのような効果があるものですか。その説明として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア いつも自分の味方でいてくれる、頼りになるもの。

イ つらいときに心の支えになり、乗り越える力をくれるもの。

ウ 心の中にある秘密の誓いを、他人に知られないようにしてくれるもの。

エ 祖母のことを思い出し、見守られているという安心感をくれるもの。

問八

——⑤「空哉は自分や店の仲間たちが勇者のように振る舞えることを知っている」とありますが、このように振る舞えるのはなぜですか。その理由を次の文のように説明しました。空欄に補うべき語句を五字以内で、解答欄に合わせて書きなさい。

背中にかばえる誰かがいること【 五字以内 】【 一】から。

問九

——⑥「祖母の悲しげな表情のわけ」とありますが、空哉はなぜ祖母が悲しそうにしているのだと考えているのですか。文章の中から三十字程度で抜き出して、最初の五字と最後の五字を書きなさい。

問十

——⑦「唇に笑みを浮かべ、空哉は夕方の空を見上げる。」とありますが、ここから空哉のどのような心情がわかりますか。その説明として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 過去の自分が苦手だったものを克服できた快感。

イ 過去の自分を乗り越えることができない悔しさ。

ウ 過去の自分より背が大きく伸びたことへの喜び。

エ 過去の自分から一歩成長することができた実感。

問十一

現在の空哉は祖母に対してどのような思いを抱いていますか。その説明として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 努力の方向を間違えていた事実が明らかになり、自分を応援してくれた祖母に謝りたくなった。

イ 祖母の思いを理解するまで十年が経過し、長い時間を費やしてしまったことが情けなくなった。

ウ 子どものときは気がつかなかった祖母の思いを理解したことで、十年越しに感謝したくなった。

エ 孫にかける言葉を祖母が悩んでくれていたことが分かり、喜びの気持ちを早く伝えなくなった。

【三】 高校生のAさんは授業で次のような研究結果を発表しました。発表と資料をよく読んで後の問いに答えなさい。

～Aさんの発表

私は、読書が好きで、将来は出版社で勤務したいと考えています。しかし、たまにインターネットで「出版不況」・「本が売れない」という記事を読みます。また、「若者の活字離れ」という内容の記事を目にすることもあります。本当に本が売れていないのか、もしそう

ならば本が売れなくなった原因は私たち若者にあるのではないかと感じ、現状を調べてみました。

まず、実際に本は売れなくなっているのでしょうか。

資料Ⅰから、「出版市場の売り上げの推移」に関する調査です。この調査が開始された2014年から2022年までで紙媒体の書籍の売り上げは、「i」。一方で、電子書籍の売り上げは年々増加していることがわかります。2022年は2014年と比較すると5倍近い売り上げを記録しています。

書籍全体の売り上げは、「ii」年が最も少なくなっています。おそらく、紙媒体の売り上げが下がっていく中で、まだ電子書籍の普及率が低かったのではないかと思います。近頃は、私の周りにも電子書籍を用いる人が増えてきています。電子書籍は収納スペースが不要で、どこでも読めるというメリットがあります。

次に若者の活字離れについて調べてみました。

資料Ⅱを読むと、20代の「読書を全くしない」という回答は50%を超えてはいるものの、一番多い数字ではありませんでした。ちなみに「読書を全くしない」という回答が最も多かった年代は、「iii」代であるということがわかりました。しかし、「月に6冊以上を読んでる」という回答は20代が最も少ない数字でした。私自身は月に10冊読むことがあるので、意外な気もしました。

問一 「i」に補うべき語句として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 下がり続けています

イ 下がり続けているわけではありませんが、2022年は低い数字でした

ウ 高いとは言えませんが、ここ数年は回復傾向にあります

エ 高い水準を維持しています

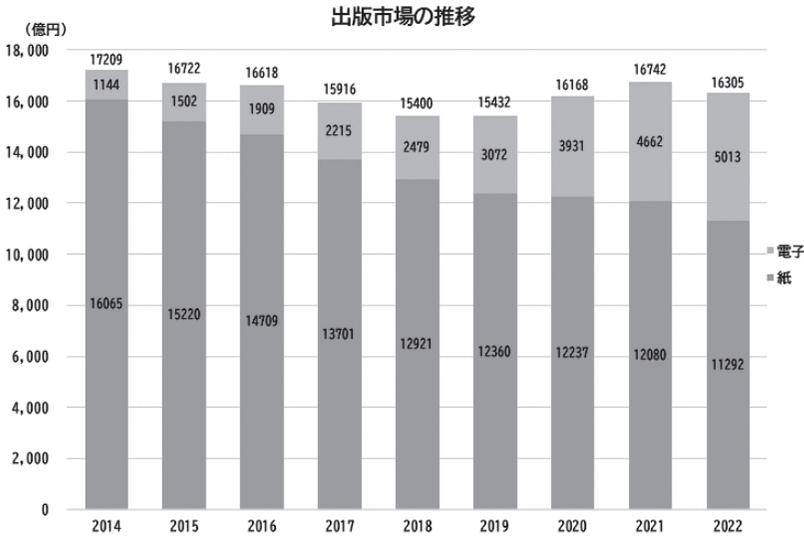
問二 「ii」にあてはまる年を数字で書きなさい。

問三 「iii」にあてはまる年代を数字で書きなさい。

問四 この発表を聞いた先生は、次のように感想を伝えました。空欄にあてはまる語句として適当なものを、【a】は六字で、

【b】は四字で、それぞれAさんの発表から抜き出し、【c】は数字を書きなさい。

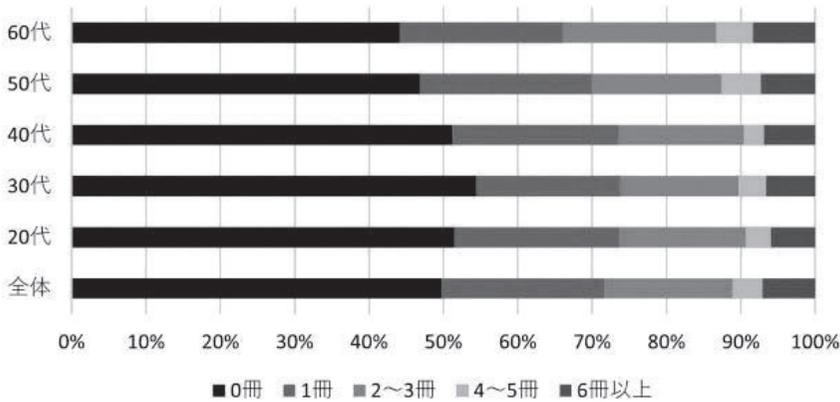
資料Ⅰ 出版市場の売り上げの推移



(全国出版協会の2022年度調査より)

資料Ⅱ 日本人が1か月に読む本の量

1か月に読む本の量 (紙媒体)



(国立青少年教育振興機構の2022年度調査より)

良い発表でした。なるほど、【a】の売り上げは下がっているけど、書籍全体の売り上げはここ数年回復傾向にあるようですね。2020年から増加傾向にあるということは、コロナ禍で自宅時間が増えたことも関係あるかもしれませんね。発表を聞くと、今後、読書をする場合は【b】の割合が増えそうですね。全体的に見ればまだまだ読書は人気があるといえるのではないのでしょうか。私は先月【c】代になり、1か月に6冊以上読む割合が最も多い世代の仲間入りをしました。でも、私は1か月に6冊も読んでいないことがほとんどですので、時間を作って読書量を増やしたいと感じました。そのためには、どこでも読める【b】を利用していいかなと思っています。

【四】次の問いに答えなさい。

問一 (1)～(3)の——の助動詞の意味を次のア～オの中からそれぞれ選び、その記号を書きなさい。

(1) よくない言動をした友人が先生に注意される。

(2) 将来学者になるために、たくさん本を読もうと思った。

(3) 牛乳がなくなり母親が姉を買い物に行かせる。

ア 推量 イ 使役 ウ 意志 エ 否定 オ 受身

問二 (1)～(3)の言葉の対義語を次のア～オの中からそれぞれ選び、その記号を書きなさい。

(1) 滅亡 (2) 反抗 (3) 需要

ア 服従 イ 供給 ウ 興隆 エ 偉大 オ 隆起